

## 各種在宅福祉サービスの利用と有用感

岩下清子\*

訪問看護婦は、寝たきり老人等訪問対象者の在宅療養がよりスムーズに継続できるよう、在宅福祉サービスの導入をはかることか多々ある。そのような立場からは、どのようなサービスが「役に立つ」とみえるのであろうか。

前掲「訪問指導従事者の実態及び意識に関する調査」(72頁参照)の中で、訪問看護婦に対し、「あなたの訪問指導の経験から考えて、寝たきり者が在宅療養を続ける上で、次にあげるサービスのうち、必要性が高いと思うのはどれですか」という質問をした。その結果は表1、2のとおりであった。入浴サー

ビス、次いでショート・ステイの必要性が高いとみている訪問看護婦が多いことがわかる。

都市と町村を比較すると、ほとんどのサービスについて、都市の方が必要性が高いとみている者が多い。また最も必要性が高いと思うサービスも、都市と町村では多少差があり、都市部ではショートステイ、ホーム・ヘルパー派遣など、介護力を補う人的サービスを第1にあげる者が多い。これらのことは、都市部では、高齢者のみの世帯、あるいは老人の

\* 日本看護協会調査研究室

表1 訪問看護婦が必要性が高いと思う在宅福祉サービス (複数回答)

		ホームヘルパー 派遣	買物、話し相手な どのボランティア	ショートステイ	入浴サービス	給食サービス
訪 問 の 看 所 護 属 婦 先	政令市・特別区	117 <sup>^</sup> (79.6) <sup>%</sup>	89 <sup>^</sup> (60.5) <sup>%</sup>	119 <sup>^</sup> (81.0) <sup>%</sup>	140 <sup>^</sup> (95.2) <sup>%</sup>	75 <sup>^</sup> (51.0) <sup>%</sup>
	市	236 (69.6)	214 (63.1)	257 (75.8)	312 (92.0)	148 (43.7)
	町	142 (58.7)	143 (59.1)	168 (69.4)	215 (88.8)	89 (36.8)
	村	26 (60.5)	28 (65.1)	27 (62.8)	41 (95.3)	10 (23.3)
	不明	24 (66.7)	20 (55.6)	24 (66.7)	33 (91.7)	11 (30.6)
計		545 (67.5)	494 (61.2)	595 (73.7)	741 (91.8)	333 (41.3)

表2 訪問看護婦が最も必要性が高いと思う在宅福祉サービス

		ホームヘルパー 派遣	買物、話し相手な どのボランティア	ショートステイ	入浴サービス	給食サービス
訪 問 の 看 所 護 属 婦 先	政令市・特別区	18 <sup>^</sup> (13.3) <sup>%</sup>	6 <sup>^</sup> (4.4) <sup>%</sup>	30 <sup>^</sup> (22.3) <sup>%</sup>	54 <sup>^</sup> (40.1) <sup>%</sup>	5 <sup>^</sup> (3.7) <sup>%</sup>
	市	23 (7.6)	20 (6.6)	42 (13.9)	100 (32.9)	11 (3.6)
	町	12 (5.6)	12 (5.6)	36 (16.7)	74 (34.1)	5 (2.3)
	村	4 (10.0)	6 (15.0)	6 (15.0)	14 (35.0)	1 (2.5)
	不明	3 (9.7)	1 (3.2)	6 (19.4)	15 (48.4)	1 (3.2)
計		60 (8.3)	45 (6.2)	120 (16.6)	257 (35.4)	23 (3.2)

各種在宅福祉サービスの利用と有用感

昼間独居など家族内の介護力が弱体である世帯が多く、また介護代替者も得にくい状況を反映していると考えられる。

次に、今回の調査（「ショートステイ・サービスに関する調査」，53頁参照）で、ショートステイの他にどのような在宅福祉サービスを利用しているか、どのサービスが役に立つと思うかについて問うた（表3）。それによれば、利用したことがある者が多いのは、第1位がデイ・サービス、次いで入浴サービス、訪問看護である。有用感については、デイ・サービス、入浴サービス、次いでホームヘルパー派遣が上位を占めている。

なお、デイ・サービスと入浴サービスとでは利用者に違いがあり、前者は寝たきりでない人、呆け症状のある人、介護者が健康、子供と同居など介護力がある場合の利用率が高

く、後者は、日常生活動作能力の低い人、寝たきりの期間の長い人、介護者が男あるいは高齢、夫婦のみ世帯などで利用率が高い（表4）。

ショートステイの利用者で、あわせてデイ・サービスを利用している（または利用したことがある）者は7割近くにのぼり、かつ有用感も高い。ところが上述の全国の訪問看護婦が「必要性が高いと思うサービス」としては、デイ・サービスはそれほど上位ではない。それはデイ・サービスが全国的にはまだショートステイほど普及していないことや、訪問指導事業では主として寝たきり者を対象としており、デイ・サービスには向かなかったり、受け入れてもらえない場合が多いことなどによるであろう。しかしデイ・サービスは、活用してみてその有用性が認識されることがお

デイケア、 デイサービス	訪問・通所 リハビリテー ション	日常生活用具 貸与	貸おむつ、 おむつ支給	金銭的援助	そ の 他	回 答 者 数
88 <sup>^</sup> (59.9)%	116 <sup>^</sup> (78.9)%	111 <sup>^</sup> (75.5)%	106 <sup>^</sup> (72.1)%	53 <sup>^</sup> (36.1)%	6 <sup>^</sup> (4.1)%	147 <sup>^</sup> (100.0)%
217 (64.0)	249 (73.5)	250 (73.7)	214 (63.1)	124 (36.6)	25 (7.4)	339 (100.0)
133 (55.0)	166 (68.6)	166 (68.6)	121 (50.0)	76 (31.4)	14 (5.8)	242 (100.0)
20 (46.5)	28 (65.1)	29 (67.4)	16 (37.2)	8 (18.6)	2 (4.7)	43 (100.0)
15 (41.7)	24 (66.7)	21 (58.3)	24 (66.7)	11 (30.6)	2 (5.6)	36 (100.0)
473 (58.6)	583 (72.2)	577 (71.5)	481 (59.6)	272 (33.7)	49 (6.1)	807 (100.0)

デイケア、 デイサービス	訪問・通所 リハビリテー ション	日常生活用具 貸与	貸おむつ、 おむつ支給	金銭的援助	そ の 他	計
5 <sup>^</sup> (3.7)%	6 <sup>^</sup> (4.4)%	2 <sup>^</sup> (1.5)%	5 <sup>^</sup> (3.7)%	3 <sup>^</sup> (2.2)%	1 <sup>^</sup> (0.7)%	135 <sup>^</sup> (100.0)%
42 (13.9)	29 (9.6)	12 (4.0)	9 (3.0)	11 (3.6)	4 (1.3)	303 (100.0)
34 (15.7)	16 (7.4)	11 (5.1)	6 (2.8)	6 (2.8)	4 (1.9)	216 (100.0)
2 (5.0)	4 (10.0)	1 (2.5)	2 (5.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	40 (100.0)
2 (6.5)	1 (3.2)	1 (3.2)	1 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	31 (100.0)
85 (11.7)	56 (7.7)	27 (3.7)	23 (3.2)	20 (2.8)	9 (1.2)	725 (100.0)

表3 ショートステイ利用者の他のサービス利用状況

	利用したことがあるものすべて		利用の有無にかかわらず			
			役に立つと思うものすべて		最も役に立つと思うもの1つ	
デイサービス	80 <sup>^</sup>	(57.6) <sup>%</sup>	94 <sup>^</sup>	(67.6) <sup>%</sup>	32 <sup>^</sup>	(27.9) <sup>%</sup>
機能訓練	14	(10.1)	74	(53.2)	3	(2.6)
入浴サービス	48	(34.5)	91	(65.5)	35	(30.5)
緊急通報, 緊急相談	11	(7.9)	77	(55.4)	12	(10.4)
寝具乾燥	13	(9.4)	57	(41.0)	2	(1.7)
寝台, 浴槽などの貸与	9	(6.5)	63	(45.3)	2	(1.7)
ホームヘルパー(家庭奉仕員)	15	(10.8)	85	(61.1)	13	(11.3)
保健婦または看護婦訪問	47	(33.8)	82	(59.0)	6	(5.2)
貸おむつまたは紙おむつ支給	16	(11.5)	76	(54.7)	4	(3.5)
介護教室	22	(15.8)	67	(48.2)	0	(0.0)
話し相手などのボランティア	6	(4.3)	73	(52.5)	1	(0.9)
介護手当の支給	26	(18.7)	87	(62.6)	5	(4.3)
回答者数	139	(100.0)	139	(100.0)	115	(100.0)

表4 本人・介護者の状況別デイ・サービス, 入浴サービスの利用状況

		本人・介護者の 状況別ケース数	左記ケースのうち				
			デイサービス利用者		入浴サービス利用者		
日常生活動作	すわれない	22 <sup>^</sup>	(100.0) <sup>%</sup>	12 <sup>^</sup>	(54.5) <sup>%</sup>	13 <sup>^</sup>	(59.1) <sup>%</sup>
	歩ける	56	(100.0)	35	(62.5)	11	(19.6)
尿・便失禁	あり	66	(100.0)	38	(57.6)	24	(36.4)
	なし	73	(100.0)	42	(57.5)	24	(32.9)
衣類の着脱	不可	76	(100.0)	44	(57.9)	37	(48.7)
	可	63	(100.0)	36	(57.1)	11	(17.5)
呆け症状	ある	43	(100.0)	30	(69.8)	12	(27.9)
	ない	135	(100.0)	50	(52.1)	36	(37.5)
寝たきりの期間	3年以上寝たきり	29	(100.0)	13	(44.8)	15	(51.7)
	寝たきりでない	74	(100.0)	52	(70.3)	21	(28.4)
介護者の性	男	18	(100.0)	1	(61.1)	12	(66.7)
	女	121	(100.0)	69	(57.0)	36	(29.8)
介護者の年齢	70歳以上	27	(100.0)	15	(55.6)	13	(48.1)
	70歳未満	112	(100.0)	65	(58.0)	35	(31.3)
介護者の健康	病気がち	51	(100.0)	25	(49.0)	20	(39.2)
	良好, 普通	83	(100.0)	52	(62.7)	26	(31.3)
家族形態	夫婦のみ	21	(100.0)	11	(52.4)	12	(57.1)
	子供と同居	107	(100.0)	65	(61.3)	32	(30.2)
全	体	139	(100.0)	87	(57.6)	48	(34.5)

おく、ショートステイ利用者の調査では役に立つと見る者が多いのは、現に利用している者が多いためといえよう。

訪問看護婦の回答では、必要性が高いとして1位にあげる者が最も多いのは、入浴サービスである。ショートステイ利用者の回答でも、デイ・サービスと並んで入浴サービスの有用感が高い。日常生活動作能力が低い老人の入浴に、家族がいかに困っているかがわかる。

ホームヘルパー派遣は、利用者が少ない割に有用感が高い。即ちニーズが顕在化しているにもかかわらず活用が困難なサービスといえるだろう。

在宅福祉サービスの1つ1つは、それぞれの有用性と限界があり、1種で足りるということはない。いくつかのサービスが相俟って、相乗効果を発揮するといえる。たとえば、ショートステイは、家族にとって介護困難な緊急時を切り抜けるには有効であるが、恒常的

に介護負担を減らすのには役に立たない。ショートステイの利用が、付随的に老人の心身のプラスの変化と、そのことによる介護負担の軽減をもたらすことがあっても、長続きしない。ホームの職員としてもその場限りのサービスに終り、ショートステイの利用がその後の在宅療養にどのような影響を及ぼしているかを、見届けることができない。しかしデイ・サービスとつなげれば、プラスの変化の持続をはかることができる。またデイ・サービスを利用していれば、老人はホームの様子がわかり、ホームの職員も老人のことがよくわかっているのだから、ショートステイの利用はスムーズである。

しかし、このように各種サービスが相乗効果を発揮するためには、サービス提供の一貫性が重要である。しかし現状では、サービスにより行政上の管轄が異なることから、それを阻止する様々な状況があり、サービスの調整が今後の重要課題と思われる。